

株式会社タック印刷

▶ DX戦略について

<https://www.takprint.co.jp/dx/>

株式会社タック印刷

代表取締役 高田朋幸

2022.08.08

デジタル技術によって、
営業・製造・検査・出荷の工程を変革し、
生産性の向上を進め、従業員満足度・顧客満足度を向上させます

社会環境の変化に、
お客様のニーズに、
迅速に機動力をもって
全従業員参加で対応していきます。
社長をはじめ役員が先頭に立ち
DX戦略に取り組んで参ります。

① 業務支援システムのバージョンアップ

変化していく社会に敏感に反応し、お客様と従業員の声を聞き、アジャイルに対応していきます。キープロセスからサポートプロセスまで一貫したデジタル化を進めてまいります。

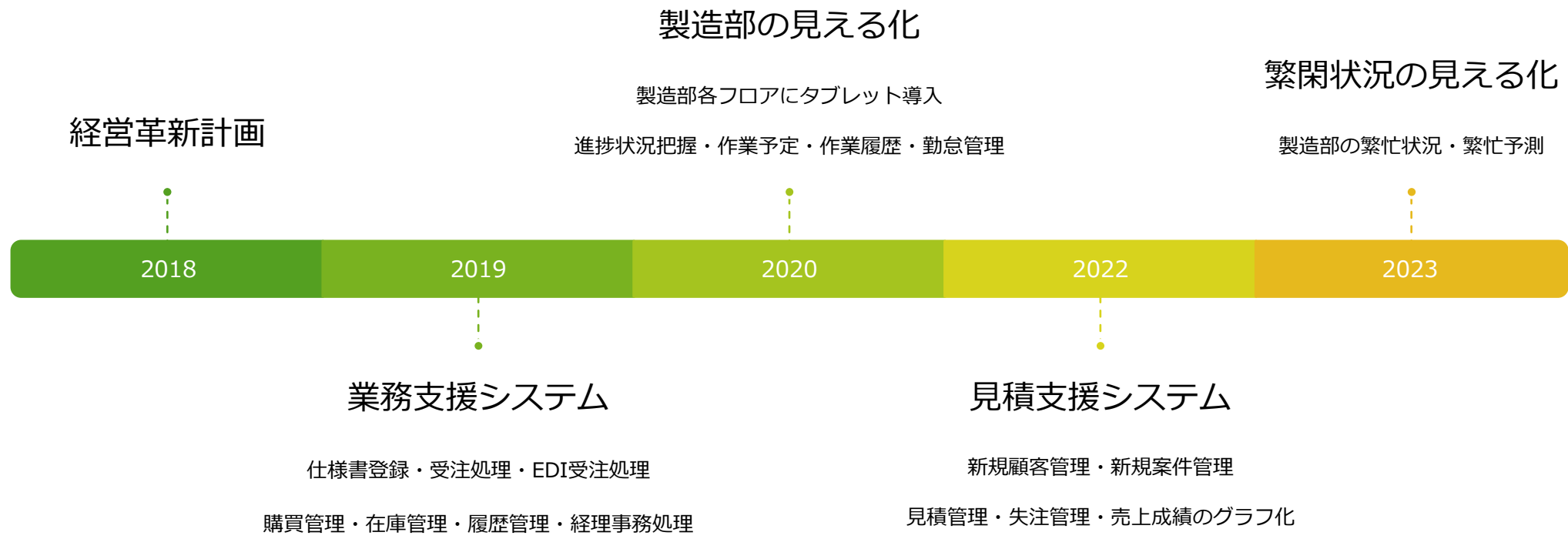
② 従業員一人一人のオペレーションのデジタル化の推進

従来、仕事として捉えてしまっていた作業のデジタル化を推進し、全従業員が参加していける体制づくりを進めていきます。

③ 企業文化の継承と技術の向上に努めていきます。

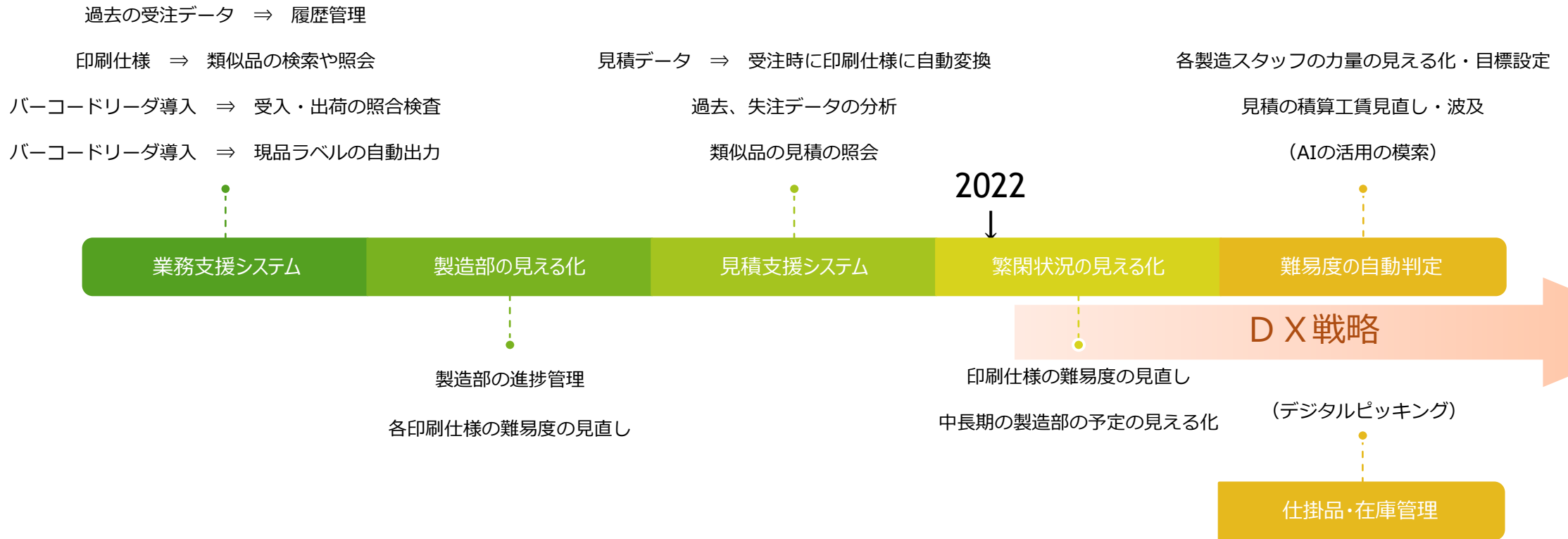
デジタル技術を活用して常に技術の向上に努めていきます。

当社が進めるDX戦略について



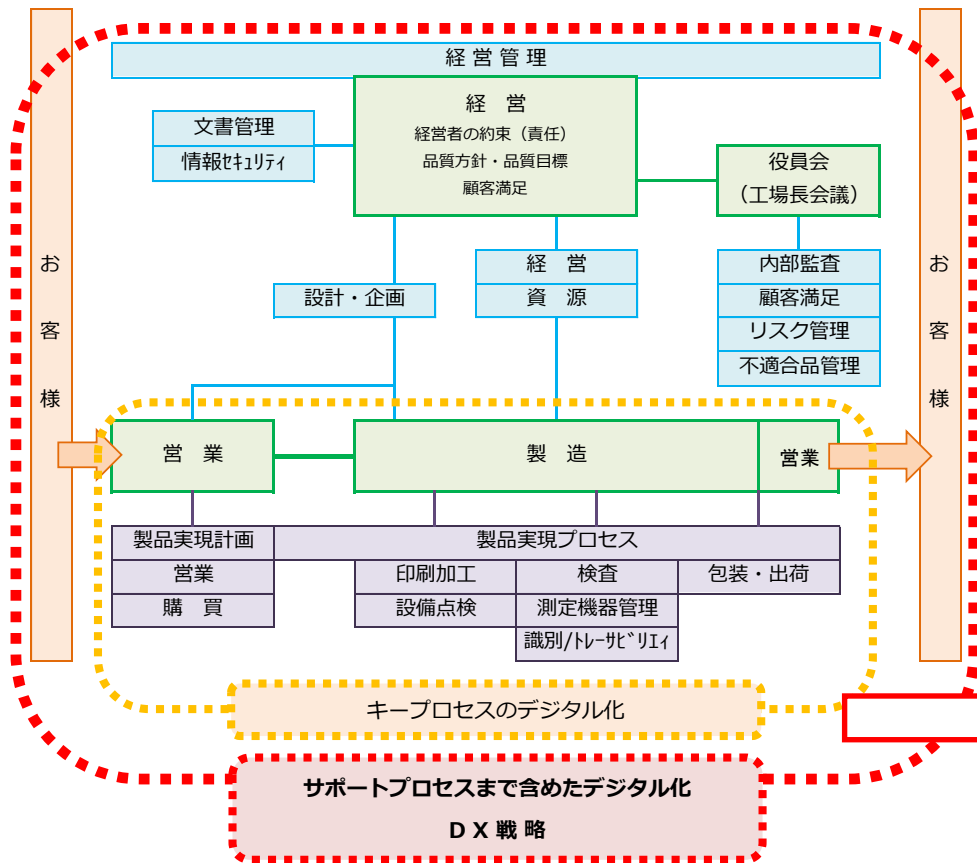
当社のデジタル化の取り組み

当社は、お客様の立場に立ち、付加価値の高いラベルを提案し、迅速に対応できる営業プロセスを構築するために2018年1月に経営革新計画を立て、2019年8月に業務支援システムを導入しました。2020年秋に各製造部にタブレットを導入し、製造部の進捗状況などの見える化を進めました。2022年初めに見積支援システムを導入しました。2023年に製造部の繁忙状況の見える化を導入する予定です。進化していきます。



データ利活用の取り組みと今後

当社は、システム導入後、データの利活用を推進しています。例えば、業務支援システムで出力される2次元コードなどをバーコードリーダーで読取、目視で行ってきた受入検査、照合検査に活用しています。工数を削減し、見間違い、出荷ミス無くしました。見積支援システムで作成した見積が受注決定したときは、その仕様データ、価格データをそのまま仕様書作成にコンバートできます。類似品の見積、過去の失注の見積データを活用して、次への受注に反映させます。今後、繁忙状況の見える化、印刷仕様の難易度の自動判定、仕掛品や在庫品の管理などに取り組んでいき、お客様満足度・従業員満足度を高めていきます。



2017年より当社のキープロセス（営業～製造）でデジタル化を進めております。一元管理ができるシステムを構築しています。業務支援システムから少しずつ枝葉を広げていくようにデジタル化を進めてまいりました。

今後、お客様に対して、従業員にとって、社会の変化に柔軟にスピーディに取り組んでいくためにDX戦略を進めていきます。DX戦略は、サポートプロセスも含めた当社全体を俯瞰する取り組みを進めてまいります。SDGs、働き方改革の効果が見える取り組みを進めてまいります。お客様満足度、従業員満足度を向上させていきます。



当社が進めるDX戦略について